

2025年度（令和7年度）学校関係者評価結果（2026/5実施）

【項目1】 教育理念・目的・目標

①状況説明

【教育理念】	本校の三綱領である「進取」「明朗」「誠実」を教育理念の根幹におく。
【養成する人材像】	時代を生き抜く「高い専門性」と「豊かな人間力」を兼ね備えた人材。常に先を見通す論理性や人間の機微がわかる感性を養い、総合力に富む真の意味で社会に貢献できる人材。

②課題及び今後の改善方策

A Iをはじめとする技術革新の動向を学校として敏感に捉え、教育内容に積極的に反映していくことが求められる。社会・就業環境の変化が不透明な現状において、全職員が情報を共有し、本校の教育のあり方や学生の将来について組織的に論議できる機会を、継続的に設けていく。

③特記事項（優良な取組等）

A Iをどう使っていくべきか、職業実践専門課程の連携企業や卒業生からの意見を取入れ、主に2年生のプログラミング関連の授業等で積極的に活用している。

【項目2】 教育課程、教育の実施、学修成果

①状況説明

教育課程は、教育理念及び育成人材像に基づき、各学科ごとに体系的に編成している。授業は講義と演習を中心に適切に組み合わせ実施し、医療事務科と総合ビジネス科では実習としてインターンシップを実施している。各科目、シラバスで授業の目的や到達目標を明示している。職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回開催し現場の視点をカリキュラムに反映させ企業・業界との連携を図っている。成績評価は評価基準に基づいて行い、進級・卒業判定も明確な基準に則って実施している。

②課題及び今後の改善方策

主に担任・授業担当・就職指導担当が、情報をできるだけ共有し学習支援を行っているが、学生の学力や習熟度の格差対応は、個々の教員に委ねられがちであり、組織的にやっているとは言いえない。組織的に支援する体制の整備を進めたい。

③特記事項（優良な取組等）

総合ビジネス科がビジネス文書技能検定において、「文部科学大臣賞」（174校中3校）を受賞した。また、秘書技能検定において、「団体優秀賞」（954校中40校）を受賞した。また、企業の採用担当者等から、卒業生が高く評価されているという声を聞いている。

【項目3】学生の受入れ学生支援

①状況説明

主に担任が窓口となり、当事者からの十分なヒアリング、本人の意志確認、保護者との密な連絡に注力して対応している。内容に応じて就職課や事務局とも連携して対応しており、現状大きな問題となることはなく機能してきた。

また、募集要項・パンフレット・HP等で受験資格や選考基準を明示し、学科によっては入学前に課題を出して入学前教育を行っている。学生支援面では、担任制による学修、学生生活、就職の指導の体制を各学科に適した形で整え、各種相談窓口を通じて心身のケアを行っている。奨学金、学費支援制度の案内も適宜行っており、退学防止のための面談や保護者との連絡や相談など、必要に応じて細目に行っている。

②課題及び今後の改善方策

年々心身に問題を抱える学生が増加し、学生や保護者との面談や相談が必要なケースも増加し、担任及び就職担当者などの負担が重くなっている。必要に応じてスポット的にカウンセラー経験のある非常勤講師にカウンセリングを依頼して対応している。外部機関との更なる連携強化やスクールカウンセラーの配置等を検討していく。

また、留学生や社会人学生など多様な学生への支援体制については、対象の学生が少ないこともあり支援体制が整備されているとは言えない。急ぎ整備が必要という状況ではないが、今後に向けて対応マニュアルなどを整備し支援体制を整えることが課題である。

③特記事項（優良な取組等）

担任が学習・生活・就職の各側面から学生を継続的に把握し、関係部署と連携しながら個別支援にあたる体制を整えている。

【項目4】教育実施組織・教員

①状況説明

カリキュラムを実施するために必要な資格・実務経験を有する教員を配置し、教員組織を体系的に整備している。採用基準を明確に定め、体制を維持している。教員の情報交換会や教職員会議を定期的の実施し、授業改善や学生対応について情報共有を行っている。職業実践専門課程においては、企業と連携した授業を実施し、実務に即した指導力向上を図っている。

②課題及び今後の改善方策

今後は、教員一人一人の技術的なキャリアアップや学生対応力アップのための体系的な中長期の研修計画を立て、ITツールやDX推進により業務効率化を図り、教務全体の対応力を上げていくことが課題である。

③特記事項（優良な取組等）

教員がそれぞれの専門分野の最新動向に関する情報を収集し、指導力向上に努められるよう、資格取得、外部研修への参加や学内での研究・研鑽活動を奨励している。

【項目5】教育環境

①状況説明

教育活動に必要な施設・設備を限られたスペースの中でできる限り適正に整備されており、教室・実習室は授業内容や学生数に応じて配置している。専門機材や学習用ソフトウェアも定期的に更新し、清掃業者による定期清掃と学生による清掃当番制の併用で学内環境を清潔に保っている。各教室にはアルコール消毒液を置き、人数の多いクラスには空気清浄機を設置している。また、設置できる教室には天吊り型のプロジェクターを設置し、授業や企業説明会等で活用している。

②課題及び今後の改善方策

学校の建物の構造の問題や広さの問題で、学生個人にPCを持たせることや最新機器の導入が難しいなど、教室の広さと数の制約に悩まされている。毎年変化する学科やクラスの人数にどうにか対応している状況。

担任をはじめ職員全体で、学生に対してできる限り要望を聞き細かい配慮をすることでカバーしていきたい。様々な制約はあるが、引続きできることから改善していきたい。

③特記事項（優良な取組等）

ここ数年のオンライン面接の増加を受けて、いつでも面接を校内で受けられるよう、オンライン面接用BOXを設置し運用している。オンライン面接の急増に伴い稼働率もかなり高くなっており、学生の就活支援につながっている。

【項目6】教育活動の基盤と改善・向上の取組

①状況説明

中長期的な事業計画に基づき、教育目的・教育目標の実現に向けた具体的方針を策定している。学校運営は組織図・規定に則り、理事会・評議委員会を通じて適切に実施されている。学校評価および関係者評価を毎年実施し、結果を公表するとともに改善計画を策定している。また、情報システムの導入により、校務・成績・出欠等のデータ一元管理を進めている。

②課題及び今後の改善方策

一昨年度に情報管理システム（S-wing）の導入を進めたが、機能的に本校の運用に適合しない面が多かったため、別のシステムへの移行を進めている。データ共有も管理体制も整備途中という状況。

今後も、改革・改善については、学校評価委員会および各学科の教育課程編成委員会を起点として、PDCAサイクルのしくみを情報管理システムの移行と並行して進めていく。

③特記事項（優良な取組等）

校務DXを進めるため、年内を目標に新たな情報管理システムの導入へ向けた準備に取り組んでいる。